

JLEM News Letter Vol.52



第58回日本語教育方法研究会開催

発表 72 件 参加者 271 名
第 59 回 オンライン開催

2022年3月15日(火)、第58回日本語教育方法研究会がオンラインで開催されました。また、前日の3月14日(月)には、運営委員会が開かれました。議事については、このレターの記事をご覧ください。

次回の第59回研究会は2022年9月10日(土)にオンラインで開催されます。会長、事務局が交代し、新しい体制となつての第1回目の開催です。皆様、奮ってご参加ください。

開催を終えて

中川 健司
(前事務局)

第58回研究会は、2022年3月15日(火)にオンラインで開催され、72件の発表が行われました。参加者は、これまでで最も多い271名(発表者、運営委員を含む)でした。この形式でのオンライン開催の研究会も3回目となり、大きなトラブルもなく、無事終えることができました。皆様のご協力に感謝を申し上げます。

本研究会では、参加者同士の関係づくりのため、オンライン開催の時も交流の時間を持ってきました。過去3回は参加者全員をブレイクアウトセッションでランダムにグループ

分けするという方法でしたが、今回新たにトピック別の部屋を設け、参加者が自由に参加する形になりました。交流会の参加者数は92名と過去3回を大きく上回りましたし、参加者の皆様のアンケートでは、肯定的な意見がほとんどでした。今回の交流会で設けた「学生の交流部屋」に参加された方が、他大学の人と交流できてよかったという感想をアンケートに書いてくださったのを見た時には、対面の研究会でごく自然に起こっていた交流の形にオンラインでも少し近づけたことがわかりうれしい気持ちになりました。

私事になりますが、今回の第58回研究会が、私が事務局として関わる最後の研究会となりました。事務局を務めたこの4年間で8回の研究会がありましたが、対面で行うことができたのは、最初の3回のみで、中止となった第54回研究会をはさみ、残りの4回は全てオンライン開催となりました。研究会としても、オンラインでどのような形で開催するのがいいのか模索を続けてきましたが、開催方法の大きな変更で戸惑われた方も多かったのではないのでしょうか。幸い参加者アンケートを見ると、現

在の開催方法に対して肯定的な方が多いようですが、今後もよりよい研究会開催に向けての模索は必要だと思います。

いろいろ変化の多い4年間でしたが、会長の河野さん、運営委員のみなさん、会員のみなさんのおかげで、なんとか全うすることができました。この場を借りてお礼を申し上げます。

事務局担当を外れた後もなんらかの形でJLEMには関わると思いますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

次回開催にあたって

内藤 真理子
(事務局)

第59回研究会は、2022年9月10日(土)にオンラインで開催します。これまで参加者間の対話を重視してきたJLEMですので、より対話がしやすい対面式で行えないかと検討しましたが、ポスター発表では、参加者の密集・密接が避けられないと判断し、今回もオンラインで開催することにしました。第59回研究会でも通常通り新規の発表を募集しますが、運営上の都合により発表件数の上限を80件とします。発表申込件数がそれを上回った場合には、発表申込をされた方を対象に抽選を行い、発表をしていただく方を決める予定です。抽選から漏れた方は、会誌原稿掲載をもって発表成立とします。

運営委員会報告

運営委員会は、研究会の前日の3月14日(月)にZoomを用いて開かれました。31名の運営委員のうち、15名の運営委員が参加し、参加できなかった委員からは委任状が提出されました。今回の運営委員会で報告、審議されたことを、以下にご報告いたします。

① 会員数

2022年3月10日現在の会員数は645名になりました。

② 次回研究会の開催予定について
次回研究会は、2022年9月にZoomで開催することに決定いたしました。

④ 運営委員の異動について

2022年4月1日より、松崎寛委員が会長に、内藤真理子委員と畠山理恵委員が事務局となります。また、それに伴いまして、河野俊之、中川健司が退任し企画・広報担当委員となります。また、根津誠委員が編集担当から企画・広報担当委員となります。

(河野俊之)

新会長・事務局からのご挨拶

【会長】

JLEMは、1993年の第一回開催から、2023年で30周年を迎えようとしています。その間、東日本大震災やコロナ禍等で2度の開催中止はありましたが、春秋2回の研究会を無事継続してこられました。これはひとえに、委員の皆様のご御尽力と、発表者の皆様の熱意、そして会に参加して

くださる皆様のJLEM愛の賜物と、改めて感謝申し上げます。

私はこの度の会長就任まで、WEB広報担当として会の変遷を見届けてきました。優秀発表への表彰、オンライン開催等、JLEMは様々な試みを加えて進化してきましたが、しかし軸となる、ポスター前、懇親会、そして廊下/ブレイクアウトルーム等のやりとりという、人と人とのつながりを大切にする姿勢は、今後も変わることはないでしょう。初めての皆さんも、ぜひお気軽にこの輪に加わってください。そして、運営委員会にもお気軽に加わってください。

コロナ禍が落ち着いたら、対面開催をぜひ復活させたいですが、オンライン開催にも良い点が多々あることが、「会員相互の協力によって、実践的かつ科学的・実証的に」明らかになっていっているので、両者の「いいとこどり」をしながら、さらなる進化を続けていけたらと考えております。みなさま、どうぞよろしくお願い致します。

(松崎寛)

【事務局】

2022年度より、中川委員より事務局を引き継ぎ、内藤・畠山の2人体制で担当することとなりました。

自身の授業について悩んでいたところ、友人に勧められたのがJLEMです。それから10年以上が経ちますが、

今でもJLEMで多くのヒントを得たり、また、自分の授業を振り返る機会をもらったりしており、JLEMへの愛は人後に落ちない自信があります。参加者の皆さんの安全を確保し、かつ実りのある研究会を開催するにはどうしたらいいか、手探りの状況が

続くと思いますが、皆さんのお力添えをいただければ幸いに存じます。どうぞよろしくお願い致します。

(内藤真理子)

会誌・ポスターを囲んでの議論・オンラインでのやりとりから多くを学び、刺激を受けてきました。当研究会が、日々の授業での悩み・喜び・挫折・気づき等々を、これからも気持ちよく開き合い伝え合える場となるように、微力ながらお手伝いしたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

(畠山理恵)

事務局よりご連絡

●発表申し込み方法について

第58回同様、第59回研究会についても発表申込時に会誌原稿を提出していただくという形をとります。ご協力をお願いいたします。

●発表者の会費支払期限について

第59回研究会で発表するためには、発表者(複数の場合は全員)は応募時点で2022年度の会費(2022年4月からの新年度分)を支払っていただかなければなりません。今回はその期限を2022年7月13日(水)としました。その時点で入金を確認できない方については、発表申し込みを受け付けることはできませんので、それを見越して、お早めにご入金をお済ませください。昨年度(2021年度)の会費が未納の場合、今年に入って会費を支払っていても、それが昨年度分に充てられ、今年度分は未納のままという状態になっている方もいらっしゃると思います。発表申し込み

を行う前に、必ず発表者全員が各自の会員ページで会費支払いが済んでいることを確認するようにしてください。

●発表をお断りする場合

本研究会では、以下の場合発表をお断りする場合がありますので、ご承知おきください。

- ①本研究会、または他の学会・研究会で既に発表された内容のもの
- ②研究倫理上問題があると考えられるもの
- ③特定の個人や集団を攻撃する内容のもの
- ④特定の教材、商品、サービス等を宣伝するもの
- ⑤日本語教育との関連が見出せないもの

●発表者の所属先の記載について

発表者の所属先の記載のしかたにばらつきがあるため、今後以下のように統一いたします。

- ・原則的には（強い希望がない限りは）、組織名（大学名）のみ表記し、部局名（例：～研究科、～学部、～センター）は付けないようにしてください。
- ・大学院生、学部生の場合には、「〇〇大学大学院生」もしくは「〇〇大学学部生」と記してください。

●住所変更等

JLEMでは、会員管理システムに登録された会員住所に会誌を郵送します。住所変更が行われず、あるいは宛名不明のため、会誌が返送されてくるケースがあります。住所変更等があった場合は、速やかに会員専用サイトにてご自身で会員情報の変更をお願いします。

（畠山理恵）

会費納入について

会計年度は、4月から3月です。前号のニュースレターでもお願いしましたが、研究会のスムーズな運営のためにも、6月30日までにお支払いくださいますようお願いいたします。

また、各研究会の際に会費納入が終了していない場合は、研究会までに会誌が送付されず、後日送付されることとなります。また、それにより、運営委員の手間が増えることとなります。それはともかく、研究会の際、会誌が手元にないと不便だと思しますので、余裕をもってお支払いをお願いいたします。発表申込の締切日を目安とお考えください。

●振り込み先

「郵便局の電信払込」で以下にお振り込みください。

記号：10140

番号：69076511

加入者名：日本語教育方法研究会

振込者名：（氏名だけでかまいません）

●所属先名で振り込む場合

所属先の前に必ずご登録の会員名をご記入ください。所属先が前だと会員名がカットされることがあります。

●会員番号で振り込む場合

会員番号の前に必ずご登録の会員名をご記入ください。会員番号が前だと会員名がカットされることがあります。

●ご登録の会員名と異なる名義で振り込む場合

必ず振り込みの度に、ホームページの「お問い合わせ」より、その旨

ご連絡ください。

●振り込む方の名義が外国語で表記される場合

ご登録の会員名が確認できないことがよくあります。特に、中国の方はピンインで表記されることが多いため、ご登録の会員名（JLEMのシステムでは漢字とカタカナのみ）を検索して確認するのに時間がかかっています。お手数ですが、振り込んだというご連絡をいただくと助かります。

●振り込みに必要な情報

ゆうちょ銀行の支店名や預金種目が必要な場合、便宜上の店名は、以下のようになっています。

銀行名 ゆうちょ銀行

金融機関コード 9900

店番 018

預金種目 普通

（「普通」「貯蓄」のいずれも可）

店名 〇一八 店（ゼロイチハチ店）

口座番号 6907651

（松崎寛・高橋亜紀子）

ご連絡先を お知らせください

会費をお振り込みいただいた方で、以下の方のお名前が会員名簿で確認できておりません。お心当たりの方は事務局までお知らせください。

2016/09/23 日付け 3000 円振込み

「フジタ キョウコ」

2016/09/24 日付け 3000 円振込み

「鈴木 聡子」

2017/06/28 日付け 3000 円振込み

「オオタカ ヨウ」

2018/09/07 日付け 2000 円振込み

「馬場 正子」

2018/09/08 日付け 3000 円振込み

「福良 直子」
 2019/03/23 日付け 3000 円振込み
 「渡邊 美和子」
 2019/11/16 日付け 6000 円振込み
 「カイインバンゴウ 20」
 2019/11/20 日付け 3000 円振込み
 「イトウ エミ」
 2020/03/29 日付け 9000 円振込み
 「カイインバンゴウ 201」
 2020/08/17 日付け 6000 円振込み
 「デンキツウシンダイ ハ」
 2021/01/21 日付け 3000 円振込み
 「X I A Y I H U」
 2022/01/28 日付け 3000 円振込み
 「カク キョウリンカクエ」
 2022/04/06 日付け 3000 円送金
 「CHEN SHI」
 (敬称略, 4月29日現在)
 (長谷川守寿)

運営委員会メンバー

会長：松崎寛（筑波大学）
 事務局：内藤真理子（電気通信大学），
 畠山理恵（文化学園大学）
 会計：伊藤夏実（東京農工大学），
 島崎薫（東北大学），高橋亜紀子
 （宮城教育大学），平田秀（武蔵
 野大学）
 編集（ニュースレター担当）：世良
 時子（北里大学）
 編集（会誌担当）：榎原実香（東京
 工業大学），大津友美（東京外国
 語大学），工藤嘉名子（東京外国
 語大学），栗原通世（国士舘大学），
 小森万里（大阪大学），佐々木良
 造（静岡大学），鈴木綾乃（横浜
 市立大学），生天目知美（東京海
 洋大学），村上智子（山梨学院大
 学）
 編集（J-STAGE 担当）：寺嶋弘道（立
 命館アジア太平洋大学）
 情報管理：佐藤礼子（東京工業大学），
 篠崎大司（別府大学／株式会社篠
 研），橋本直幸（福岡女子大学），
 長谷川守寿（東京都立大学）
 企画・広報：河野俊之（横浜国立大
 学），俵山雄司（名古屋大学），
 中川健司（横浜国立大学），根津
 誠（国際交流基金），平山允子（日
 本学生支援機構）

日本語教育方法研究会

問い合わせ先：jlem-ml@jlem-sg.org

（レター編集：世良時子）